

ショップとしては今年のジョイントに臨むにあたり、目標だった6台を展示することができて良かったです。M8がメーカーからリリースされて3年ほど経過しましたが、これに追いつく形で新型モデルをベースにしたカスタムをご紹介できたのが特に



Builders Interview 04

# Builders Interview in JOINTS CUSTOM BIKE SHOW

嬉しかったですね。ギリギリまで作業が続いて大変でしたけど、今は達成感を感じています。シーンの状況としてはカスタムの多様化が感じられますけど、それぞれに熟成度が上がっていますね。もちろんバギーもそうです。このバギーに関しては、ウチとしては新たな方向性を打ち出そうかと考えています。ざっくり言うところスピードクルーザー、パフォーマンスバギーと呼ばれるタイプですね。性能の上が高年式のハーレーをベースに、しっかりと走りを楽しめるバイクを作っていくというスタンスです。

今年のジョイントも多くの来場者が訪れ、活気に溢れていて良かったと思います。昨年と比べるとバギーの台数は減った感もありますが、注目度自体は高いと思います。そのぶん、各ショップさんの作られるバイクの完成度は高くなっています。あの意味、自分たちのスタイルを磨いて、個性による様々な差異が出てきているのが特徴じゃないでしょうか。ウチとしては、昨年フロントホイール30インチのバギーを製作しましたけ



Builders Interview 05

ど、一度ちょっと落ち着かせてみようかという感じですが、みなさん工夫してやっておられますが、やはりバランス取りには苦労する面もありますので(笑)。一方、うちで展開している外装系のパーツブランド「白虎」を拡充させていかうかというプランがあります。汎用性とリーズナブルな価格を目指していき、同時にFRPの特性を活かして軽量化を図る。これからは走りを含めた実用性を重視していきたいですね。マシンのバランス取りを考えながらサスペンションを吟味するなどして、乗り心地を向上させる。さらにそこにデザイン性を両立させます。スタイルと走りの両立と云うところでしょか。様々なショップさんも念頭に置いている部分だと思わんですが、これからはよりモトリーらしいオリジナリティを盛り込んでいくつもりです。そこへ忘れてはいけないのはユーザーさんの声。これを大切にしていかなければカスタムシーンの発展はないと思います。



Builders Interview 06

ウチは新旧様々なモデルをベースにしたオールドスタイル系のカスタムを得意としています。シーンの動向やニーズに応えるカタチでバギーにも

より力を入れてみようかと思つています。名前の通り、バッグを主役に据えたモデル周りのデザインが要になっているのですが、僕らが注目しているのはペイント。せっかく広いキャンパスを持っているので、これを活用してオリジナリティを発揮するのはアリだと思います。お客様の中にはおぼろげなイメージしか持つておられない方も多いので、そこはこつち側から積極的にアイデアを出させて頂くことも可能です。実際、全てお任せという方も結構多いですね。そこは信頼を頂いている証しと思ひ感謝しております。あと、アピールしたいのはパフォーマンスの重要性ですね。吸排気を変えているならば、それに合わせてチューニングは必須。ショップにはシャシダイを備えていますので、カム交換、排気量アップなども合わせてカスタムすることがオススメです。今後は走りを重視する傾向が強まると思ひます。あとは限りある予算で、どう理想のバイクを作り上げるか。これも重要なポイントと考えています。

## 今のバギーシーンについてプロの意見が聞きたい!!

日本最大級のインドアカスタムイベント「ジョイント」の会場で、各ショップ代表のビルダーさんに今後のバギーシーンやカスタムの方向性を訪ねてみた!



Builders Interview 01

カスタム全体またはバギーだけを切り取っても様々なスタイルが出揃った感のある今日のシーン。各ショップが今後どのような展開を予想しているか、またどんな構想を持っているか、それぞれビルダーさんに尋ねてみた。インタビューをお届けしよう!!

僕ら様々なクルマのショーでは常連組で出させていたにいたるんですけど、今回は念願叶ってジョイントに初出展させていただきました。おかげ

さまで来場者の皆様の生な反応を確かめられたのが非常に有意義でしたね。また、同業者様とも会場での交流を持てたのがとてもプラスになりました。おかげさまで前号で表紙を飾らせていただいたフロントホイール34インチのバギーも評判が上がりました。僕は大工の経験があるものから、実物を見ると作り込みが甘いんじゃないか、なんて思われるのはイヤだったんで、実際その辺はきっちり



Builders Interview 02

ジョイントは今年も大盛況でしたね。ジョイントには大成功と言いたいんじゃないですか。馴染みの人はもちろん、初めての人たちまで含め、ブースにもたくさんのお客様に足を運んでもらいました。ありがたいことに、うちも主催者様からアワードを



Builders Interview 03

今年のジョイントに参加させてもらって思ったのは、年々お客様にチーム、グループで来場して下さっている

頂くことができました。ショップとしてはこれからますます勝負たと思ひます。バギーカスタムもついに来るところまで来たという印象がありますね。現在おかげさまでたくさんのお客様から指示をいただいているんですけど、それに甘んじることなく、さらに創意工夫して新たなシーンに臨んでいかなければダメだと思ひました。パーツに関しては間もなく発売となる、新しいバギーキットに注目していただきたいですね。従来よりも10mmほどロングタイプのデザインで、シャープなデザインを取り入れたものになります。人のやっていないことや、人の目を引くことをやっていかないとこの世界ではインパクトを与えられないですから。あとはうちが積み重ねて来た技術やセンスを活かしてソフテイルやヘリテージ系をベースにしたカスタムにも挑戦していきたいです。実はこちらも山ほどアイデアを抱えているので、ぜひこれからのアイアンバンドクにも期待してもらいたいですね。

方が多いという印象を受けました。これはやはりSNSの影響が大きいというところではないでしょうか。ソーシャルメディアを駆使してバイク好き同士が結びつき、新たな勢いを作っているのを感じますね。バイク離れが語られる昨今、これは嬉しい兆候です。うちのバイク作りの秘訣を明かしますと、僕は映画好きのオタクで、実はその映画からヒントを得ていることが多い。エバンゲリオンですとか、パットマンに登場するバットモビルがあるとか。360ワイドホイールや3mのロングフォークなど、うちも色々シーンで話題になるカスタムを行なつて来たという自負があります。バギーに關してもオンリーワンと言え複雑な造形を志していますね。ある程度ジャンルも飽和状態になつて来ていると思うので、うちは新たな展開を考えています。原点回帰というか...。トリイジャの特徴であるソフのボディメイクやワイドホイールなどを取り入れながらも、ノーマルのイメージをそこにとり残す。例えばカラーリングに純正色を持つてくるとか。カスタム屋が言うのもなんですが、実は一番シンプルでかっこいいのはノーマルのハーレーだと思つているんです。あとは自由度の高いデザインが行える3Dプリンターの導入ですね。進化した技術を活かすことが命題と言つていいんじゃないでしょうか。



# THE BAGGER CUSTOM

Harley Davidson  
2008 FLTR



## クロウをイメージしたブラックアウト近未来スタイリングバグー



2008年式のロードグライドをベースに細部まで七分艶でブラックアウト。ワンオフのストレッチタンクからエンド部にかけて翼や尾翼の様に優雅に伸びるボディラインは、生命感溢れるフロントマスクと相まってクロウさながらのスタイリングだ。フロント周りは26incホイールを選択し、PMの6ポッドを投入して機敏なコントロール性を与えている。漆黒の車体に赤いプラグコートで一部だけ効果的にアクセントを与えている点も見所だ。また、ワンオフのスウェードとのコンビで製作したシートはシャープなデザインで車体としっかりとマッチさせている。搭載のオーディオシステムで少し怪しくミステリアスな音楽を愉しみながらライドしたい一台だ。



デュアルヘッドライトの精悍なフロントマスク。生命感と近未来感が同居するデザインだ



エンジン周りもしっかりとブラックアウト。コントロール類はアーレンスをチョイス



長く自然に流れる様なラインが印象的なリアビュー。車体に大きな個性を与えている



シャープなスタイルのワンオフシート。オーディオシステムはキッカーをチョイス



**Arthur**

福岡県北九州市小倉南区上吉田5-1-9  
TEL:093-953-8337  
[www.instagram.com/arthur.masanobu123](http://www.instagram.com/arthur.masanobu123)

Harley Davidson  
2012 FLHX CVO



## 光のコントラストで描き出す、立体感溢れるコンパクトバグー

Trijyaのオリジナルパーツをふんだんに投入し、マットなシルバーで纏め上げたコンパクトな一台。シングルトーンだからこそ生まれるマシンの立体感は妖艶でいて、ドイツプロダクツや戦闘機のような機能美を同時に感じさせる魅力に溢れている。また、フロントカウルにはBallisticを組み込み、独特の表情を浮かべるヘッドライトと相まって、近未来的なフロントビューになっているぞ。Jim Nasiのサドルバッグからマフラーエンドが覗く奇抜なレイアウトに向かってフレームのような立体成形が行われている点にも是非注目して欲しいシンプル&コンパクトでTrijyaが新たに魅せる、新境地へ足を一歩踏み入れた完成度の高いマシンに相成った。



**TRIJYA**

大阪府柏原市本郷5-4-18  
TEL: 072-970-3110  
<http://trijya.com>



立体成形のバッグに合わせて、マフラーエンドにも手の込んだデザインを落とし込む



車体に合わせたシンプルなシングルシートを選択。こちらもTrijyaオリジナル



チンスポイラーもシルバーの濃淡で独特な造形美が生まれる。エアクリはネス



ハンドル周りもシルバーで統一。Trijyaオリジナルパーツで形成されている

### Custom Spec

フロントカウル: バリスティック/ヘッドライト: MT01/トリプル: Trijya/フォークボトム: ネス/フロントフェンダー: Trijya/フロントホイール: PM/フロントブレーキキャリパー: PM/ディスク: PM/ハンドル: Trijya/ガスリントタンク: Trijya/チンスポイラー: Trijya/ボード: ネス/フットコントロール: ネス/エアクリーナー: ネス/マフラー: Trijya/ECM: スクリューミンイグル/サイドカバー: Trijya/シート: Trijya/リアショック: レジンド/リアフェンダー: Trijya/パニアケース: ジムナッシュ加工/リアホイール: PM/テール: Trijya/ペイント: Trijya/他